

今年度来られた先生・職員さんが選ぶ！

思い出の1冊

今月号から、今年度来られた先生・職員さんの選ぶ、思い出の1冊 or 生徒へのおすすめの1冊を紹介していきます！各月3～4名の方の選んだ本を紹介していきます！先生や職員さんが、どんな本を選んだのか、お楽しみに！

No.1

S科 田口栄治先生

『ぼくらの七日間戦争』

宗田理／2014(1985 初版)／KADOKAWA

今までの人生でほとんど本を読んできませんでしたが、これからは本を読みたいと思っています。本を読んだ記憶がほぼない私ですが、この本は覚えています。小学生か中学生の頃に、図書館でこの本を読みました。

中学生が大人たちへの反乱を起こすという内容ですが、当時自分と同年代ということで夢中になって読みました。映画化もされました。懐かしいです。本をたくさん読むのもいいと思うのですが、最近は何か一冊の本をしっかり読み込みたいと思っています。

A科 竹田正範先生

No.2

『教科書に載っていなかった 20 代の哲学
～心に電流を走らせる 100 のメッセージ～』

千田琢哉／2011／ぱる出版

本といえば漫画本くらいしか読んできませんでしたが、中高生くらいのときに心理テストがマイブームだったこともあり、心理学者になりたいと思った時期から漫画本以外の本も読むようになったように思います。

「自己啓発」とは、言い換えれば「自分磨き」です。読んでみるとわかりますが、自己啓発の背景・原点には心理学が関係しています。

書店にはいろいろな種類の自己啓発本が並んでいます。あなたにピッタリの本たちが書店であなたに読んでもらえるのを待っていますよ。

生徒のみなさんへ おすすめの1冊

今年度来られた先生・職員さんが選ぶ！

S科 中島大智先生

No.3

『走れ！ T校バスケット部』

松崎洋／2010／幻冬舎文庫

この本は僕が中学生の時に図書館の先生から勧められました。バスケットの才能を認められた主人公の田所陽一は、バスケットの名門高校に特待生として入学します。ですが、悪質ないじめに遭い、失意のもと自主退学します。そしてバスケットは二度としないと誓い、舞台となる T 校（多田野高校）に編入し、弱小のバスケットチームから誘いを受けますが、頑なに誘いを断る陽一でした。しかし、個性豊かなメンバーと触れ合ううちに打ち解け、再びバスケットボールを始め……。という風に話が進んでいきます。

これは実話を元にして作られた本で、バスケットをしている人、していない人も、様々な困難を乗り越えていく陽一やチームメイトの姿に感動すると思います。いじめの問題、仲間との絆とバスケットを通じて見せる成長を是非手に取って読んでみてください！

No.4

アシスタント

業務 A 野川まりえさん

『～今日も明日も「いいこと」が見つかる～
「織細さん」の幸せリスト』

武田友紀（HSP 専門カウンセラー）／2020／ダイヤモンド社

まわりの方が気にしないような小さなことが気になって気疲れする。人から「考えすぎじゃない？」と言われることが多く、鈍感だったらもっとラクに生きられるのに、と思ったことはありませんか。そんな人に読んでほしい1冊です。オリエンタルラジオの中田敦彦さんの Youtube でも紹介されていました。

本書の「織細さん」とは HSP（Highly Sensitive Person: 生まれつき繊細な人）で、5 人に 1 人の割合で存在する敏感な人のことを指しています。今まで「気にしすぎ」「真面目すぎ」など個人の性格の問題だと悩んできた人も、この本を読むと「自分はこのままでいいんだ」「繊細だからこそ気づける幸せがあるんだ」と気持ちがスッキリするのではないかと思います。HSP 診断テストも載っているので、手に取ってみてはいかがでしょうか。